

# ピアノ教則本の比較研究にむけて

徳富 聖子\*・安原 雅之

A Preparatory Comparative Study of Piano Etudes

TOKUTOMI Seiko, YASUHARA Masayuki

(Received July 30, 2004)

キーワード：ピアノ ピアノ教則本 ピアノ指導法

わが国にピアノが渡来した正確な年代は定かではないが、1823年に来日したオランダ人シーボルトが山口県萩市の熊谷家に1879年に贈ったピアノが最古のものとして、また、1880年に音楽取調掛が外国人教師として招いたメーソン<sup>1</sup>が来日した折にはアップライトを持参したという記録もある。<sup>2</sup> その後の約200年の間にピアノをめぐる状況は大きく変化した。日本を代表するピアノ製造元であるヤマハでは、ピアノの国内演奏人口を約200万人と推定している。<sup>3</sup> 数ある楽器の中でもピアノは学ぶ人が多く、習い事や趣味、近年では高齢者の生涯教育として学んでいる人など常に楽器の中心に位置づけられると言っても過言ではないだろう。また、高度成長期を迎えた昭和40年（1965年）頃からピアノ人口が増加し、それと同時にさまざまなピアノ教材が出版されてきた。その中でも特に、通称『バイエル』として親しまれている『バイエルピアノ教則本』は、ピアノを習ったことのない人でも一度は耳にしたことがあるとあっていよいよ日本で普及し、使用されてきた教則本である。実際、筆者がピアノを習い始めた1980年代半ば頃も、多くの子どもが『バイエル』を使用していたように思う。しかし、今日ではかならずしも「バイエル」が最もよく使われているわけではないように見受けられる。『バイエル』を使用している生徒は、以前より減少してきたのではないかと考えた。これは今日では、『バイエル』だけではなく多様な教則本が出版され、また使用されているからではないかと考えた。

実際1995年現在、約40種類もの『バイエル』が出版されている、と報告されている。<sup>4</sup> この報告によれば1989年には『バイエル』の種類は25種類であったとされているので、6年間で15種類も増えたことになる。多いところでは1つの出版社から8種類もの『バイエル』が出版されている。

現在出版されているピアノ教則本をリストにしてみると、音楽之友社、全音楽譜出版社の2社だけで『バイエル』も含め212種類ある。このように現在では膨大な数の教則本が世の中にあると言えるだろう。その中からどの教則本を子どもに課すのかということを考

\*山口大学大学院教育学研究科音楽教育専攻

<sup>1</sup> ルーサー・ホワイトニング・メーソン Luther Whiting Mason (1818.3.3~1896.7.14)

<sup>2</sup> 浅香淳『新訂標準音楽辞典』音楽之友社、1966年、1503頁。

<sup>3</sup> <http://www.yamaha.co.jp/news/2003/03021201.html> ヤマハ公式ホームページ (2004.7.20現在)

<sup>4</sup> 近藤久美「初心者向けピアノ教本についての研究 (1) ——バイエルピアノ教則本の場合」『一宮女子短期大学紀要』第34号 (1995年)、176-177頁。

え、その手助けとなるものでそれぞれの教則本について述べられた著書及び論文等は数多くある。たとえば代表的なものに千蔵八郎の『ピアノ学習ハンドブック』がある。この本は31の教則本についてひとつひとつ解説しているが、相互に比較した上で書かれているわけではない。また、この本は1989年に出版されたもので、この後にもさまざまな教則本が出版されているので、すべてが網羅されているわけではない。そのほかの本にも同じことが言える。よって、新しいものも考察し、以前のものと比較していく必要があり、何種類かの教則本を比較しつつ問題を解決すべきだと考える。

#### ・研究の対象と方法

本論では、まず比較する教則本の対象を初級過程（全音楽譜出版社による）にしぼった。理由は、ピアノを始めてから使用するであろう教則本を対象にすることで進度を比べやすいと考えたからである。実際に比較していく教則本としては、次の5種類を選択した。

- (1) バイエルピアノ教則本Op.101（全音楽譜出版社）
- (2) ツェルニー100番練習曲Op.139（全音楽譜出版社）
- (3) メトードローズピアノ教則本（音楽之友社）
- (4) バスティンピアノベイシックス（東音企画）
- (5) バーナムピアノテクニク（全音楽譜出版社）

これらのうち、バイエル、ツェルニー、メトードローズの3つの教則本は古くからよく使われているもので、バスティンは比較的新しいものであるが、前に述べた『ピアノ学習ハンドブック』にもとり挙げられていることからわかるように普及度の高いものと考えられる。バーナムはバスティンと同じように最近のものであるが、上記の本にはとりあげられていないが知名度は高まりつつある。

教則本を比較していく上での基準は、音の長さを表す音価、その曲が何調であるかを示す調性、拍子、リズム、その教則本の導入法、曲の表現のしかたを示した表現法、選曲、指の運動、などである。次に、各教則本をすべて1000小節と決め、1000小節まで数えたところまでの内容を比較していく。小節数をそろえることで各教則本の進度がはっきりわかり、それぞれを比べ、違いを明らかに見やすくていいのではないかと考えた。それぞれの教則本に関して比較していき、1000小節までの間のどこに何が新しくでてきたのかということ項目ひとつずつで表にし、5つの教則本で比較していく。

#### ・各教則本の著者、教則本について

まずここでは5種類の教則本についてそれぞれの作曲者、教則本について簡単に説明していきたい。

##### (1) バイエルピアノ教則本

この教則本の作曲者は、フェルディナント・バイエル Ferdinand Beyer (1803.7.25クヴェアフルト～1863.5.14マンハイム) である。バイエルはドイツで活躍した作曲家であり、ピ

アニスト、そして教育者でもあった。彼はピアノ小品の作曲、当時流行した管弦楽曲やオペラの旋律などのピアノ用編曲、改作したことで知られていたが、ピアノ以外の作品も書いていた。

この教則本は、フランス語、英語、スペイン語にも訳され、諸外国へもどんどん普及していった。『バイエル』の原題は『Vorschule im Klavierspiel [ピアノ奏法入門書]』といい、日本で広まるきっかけとなったのは、1880年に音楽取調掛の教師としてボストンから日本にやってきたアメリカ人のルーサー・ホワイトティング・メーソンがピアノ教材として取り入れたことである。このときに輸入された15種類75冊の楽譜のうち20冊が『バイエル』だった。現在日本で出版されているものは、ドイツのペーターズ社から刊行されているものの翻訳版である。わが国では第二次世界大戦後しばらくの間『バイエル』が主な初心者用教本として使用され、1995年当時、毎年60万部から70万部発行されていると報告されている。<sup>5</sup>

## (2) ツェルニー100番練習曲

この教則本の作曲者は、カール・ツェルニー Carl Czerny (1791.2.21ヴィーン～1857.7.15ヴィーン) である。ツェルニーはオーストリアの作曲家であり、ピアニスト、また教育家でもあった。ツェルニーはピアノ曲をはじめ、宗教音楽、劇音楽、序曲、室内音楽、合唱曲、歌曲も作り、それらは1000曲を超える。ピアノ教師の父親のもとに生まれ、父からピアノの手ほどきを受けた。9歳から20歳までピアニストとして活動する。10歳でベートーヴェンに師事し、ピアノ奏法のほかに編曲技術や管弦楽法、楽譜を速く書く技法を学んだ。その後はフンメルやクレメンティらに師事した。1805年、ツェルニーが15歳の頃からピアノを教え始め、多くの弟子を育てあげた。その中の一人に有名なフランツ・リストがいる。

## (3) メトードローズピアノ教則本

この教則本は、エルネスト・ヴァン・ド・ヴェルド Ernest Van De Velde (生没年不祥) が作曲した。ヴァン・ド・ヴェルドはフランスのピアノ教師であり、自身の長い教育の体験をもとにしながら、子どもが普段歌う曲を取り入れながら教則本を作っていた。<sup>6</sup> エルネスト・ヴァン・ド・ヴェルドについては『ニューグローブ音楽辞典』にも項目がなく、詳細についてはわからなかった。この教則本が日本で出版されたのは、1951年(昭和26年)である。

## (4) バスティン・ピアノ・ベイシックス

この教則本の作曲者は、ジェームス・バスティン James Bastie (生没年不祥) である。室内楽の奏者であり、また伴奏家でもある。また、ピアノ教育者としてノートルダム大学、バスティンはテュレーヌ大学、ロヨラ大学での助教授を歴任している。著述活動をしながらか国で講演活動もおこなっている。

この教本のシリーズは、アメリカのバスティン一家が家族で作りに上げた教則本であり、『バスティンピアノベイシックス』の「ピアノ」はこのシリーズの基本となる曲集である。このほかに楽典の学べる「セオリー」、演奏会用曲集の「パフォーマンス」、指を鍛える

<sup>5</sup> 近藤久美「初心者向けピアノ教本についての研究(1)——バイエルピアノ教則本の場合」『一宮女子短期大学紀要』第34号(1995年)、176頁。

<sup>6</sup> 『メトードローズ・ピアノ教則本』音楽之友社。

「テクニック」と全部で4種類ある。ジェームズの妻であるジェーン・スミサー・バスティンは1970年代にピアノベイシックスの幼児向けテキストを出版し、ふたりの娘であるリサとローリーはこの教材を使って母からピアノの手ほどきをうけた。バスティンメソッドは何度も改訂を重ねており、現在日本で出版されているのはバスティン女史とリサ、ローリーの3人が編集した導入教材の『ピアノパーティー』とジェームズ・バスティン氏が編集したそれに続く『ピアノベイシックス』がある。今回この論文で使用したのは後者の『バスティンピアノベイシックス』のなかの「ピアノ」である。

#### (5) バーナム・ピアノ・テクニック

この教則本の作曲者は、エドナ・メイ・バーナム Edna Mae Burnam (生没年不祥) である。バーナムはカリフォルニア州に生まれ、幼少のときから母親にピアノの手ほどきをうけ、その後カリフォルニア州の大学を音楽と幼児教育のダブル・メジャーで卒業。作曲とピアノを学ぶ。41冊の本と69の小曲を出版している。

この教則本の全体は導入の巻<sup>7</sup>と、それに続く4巻から構成されている。それぞれの巻は12曲の短い曲から構成される5つのグループから成っている。曲のほとんどは4～8小節の短い曲である。それぞれの曲にはイラストと、子どもにもわかりやすい標題がつけられている。

#### \*比較結果

##### ・調性

調性に関しては、曲の最初の調号でその曲の調性を判断した。曲中に転調を含むものはその調も含めて示した。転調を含む曲以外は新しい調がでてきていない場合は何も記入していない。(以下表1を参照)

まず、どの教則本もハ長調の曲からはじめられている。

バイエルピアノ教本は1000小節まで進んでも、ハ長調しかでてこない。37曲全曲ハ長調である。メトードローズピアノ教則本がこれと似ており、876小節目(第3課の半分あたり)で初めてト長調がでてくる。ツェルニー百番練習曲は、最初ハ長調のみで、472小節目(21番)にヘ長調、520小節目(25番)でト長調、645小節目(31番)で変ロ長調、681小節目(33番)でニ長調がでてくる。バスティンピアノベイシックスでは最初の1冊目(プリマー)はすべてハ長調である。その後2冊目のレベル1に入ってもしばらくはハ長調のみで、591小節目(レベル1の3分の1あたり)で初めてヘ長調が出現し、その後667小節目(レベル1の半分少し前)にト長調、866小節目(レベル1の半分過ぎたあたり)には転調を含む曲がでてくる。その調は表にあるようにハ長調、ト長調、ヘ長調の順ででてくる。その後新たな調の出現はない。バーナムピアノテクニックは、1冊目の最後あたりまでハ長調で、269小節目(導入書のグループ5の1曲目)にハ長調・ニ長調・ホ長調・ヘ長調の4つの調のふくまれた曲がでてくるが、それ意外はすべてがハ長調である。823小節目(2巻のグループ2の1曲目)でト長調がやっとでてくる。986小節目(2巻のグ

<sup>7</sup>『導入書』と『ミニブック』があるが、導入書とミニブックの内容はほぼ等しく、ミニブックの方があとから出版されたので、今回は『導入書』を分析の対象とした。

ループ3の10曲目)で二長調がでてくる。

調性において5冊で比較してみると、始まりはみなハ長調である。そしてしばらくの間はどの教則本もそのままハ長調であり、バーナムがこの5冊の中では一番先に(269小節目)新しい調がでてくる。ツェルニーは約半分の472小節目で、バステインも半分を少しすぎたあたりにハ長調がでる。バイエルについてはハ長調のみであるが、ほかの4つの教則本については新たな調がでてくる箇所は異なるがだいたいg 1つか# 1つの調からでてくる。1000小節目までだと、ツェルニーは調号2つまで、メトードローズとバステインは調号1つまで、バーナムは調号2つまでと、1曲だけ調号4つのホ長調の曲が269小節目にでてくる。

### ・音価とリズム

ここで比較したのは音価(音の長さ)とリズムである。新しい音符の種類がでてきた場合と、新たなリズムが登場したときはそれをあわせて表示し、リズム名を音符記号の横に記入した。(以下表2を参照)

バイエルは最初、全音符と、4分音符の曲ではじまり、13小節目(1番より前の右手のみの練習)で付点2分音符がでてくる。そして600小節目(15番途中)で四分音符のスタッカートがでるのみである。その後1000小節目まで進んでも新たなものはでてこない。よって、音価は3種類、リズムはスタッカートしかでてこない。

メトードローズはこれと似ており、音の種類としては全音符、4分音符が最初にでてくる。その後123小節目(第1課のはじめあたり)で付点2分音符、139小節目で2分音符がでてくるが、そのあとは809小節目(第3課の3分の1終えたあたり)で付点2分音符と4分音符の遅い付点のリズムがでるのみである。音価は4種類、リズムは1種類とバイエルに似ている。

次に、バステインは2分音符と4分音符で始まる。9小節目(プリマーの最初から数えて3曲目)に2分音符がでる。287小節目(プリマーの4分の3あたり)で8分音符がでてくる。399小節目(プリマーの終わりあたり)には4分音符のスタッカートが登場する。907小節目(レベル1の終わりあたり)には付点4分音符がでてきて、付点4分音符と8分音符の付点のリズムがでてくる。音価は6種類、リズムは2種類でてきた。

最後にツェルニーとバーナムであるがこの2つは音価の種類もリズムも非常に多い。

ツェルニーに関しては、先に述べたが、1冊の本の半分手前までしか1000小節目で進むことができないにもかかわらず、音価は2分音符、4分音符、8分音符、付点2分音符、付点4分音符、16分音符、8分音符の3連音符、付点8分音符、16分音符の6連音符、16分音符の3連音符、と計10種類の音価と、リズムも付点、3連符、シンコペーション、ターン、トリル、6連符、休符の入った付点、と8種類ものリズムが使用されている。

バーナムも最初、2分音符、4分音符から始まり、8分音符、3連音符、16分音符、32分音符、5連音符とさまざまな音符がでてくる。リズムに関しては、4分音符のスタッカート、装飾音、8分音符の3連符、4分音符の3連符、16分音符の5連符、トリル、がでてくる。

## ・拍子

拍子は曲の最初に書いてある拍子をもとにした。一度でてきた拍子についてははその拍子が一番最初にでてきた小節で記入したあとは途中ででてきてもカウントしない。(以下表3を参照)

バイエルは第1曲目は4分の4拍子である。これは他の4つの教則本にも共通して言えることである。その後間もなく4分の3拍子がでて、150小節目(1番に入る前の両手練習)で4分の2拍子がでる。

拍子に関しては表からも明らかなように、どの教則本も似ているところがあり、最初は必ず4分の4拍子からはじまっている。また、4分の3拍子や、4分の2拍子も比較的早いうちにでてくる。

ツェルニーだけはさらに301小節目(12番)で8分の6拍子、325小節目(13番)で8分の3拍子がでており、少し違った傾向がみられる。

## ・表示記号

表示記号は速度記号と奏法に関する表現記号をとりだして記した。拍子と同じく新しいものがでてきた時だけ記してある。(以下表4を参照)

バイエルとメトードローズは、表から見てもわかるように、他の3つの教則本に比べると表示記号の種類が少ない。メトードローズは最初にリピート(繰り返し)記号がでると404小節目まで全く記号がでてこない。その後は表現に関する記号がいくつかでてくる。また、速度に関する記号はでてこない。バイエルは189小節目(1番)で速度に関する記号(Moderato)がはじめてでてくる。その後すぐに197小節目(1番のバリエーション)にスラー(なめらかに)、その後は速度に関する記号と奏法に関する記号がいくつかでてくる。

ツェルニーは1小節目(1番)から273小節目(11番)にかけて速度に関する記号が8つでてくる。その後は奏法に関する記号が約13種類でてくる。

バステインはメトードローズと同じで一番最初にでてくる記号はリピート記号である。149小節目(プリマーの半分より少し前あたり)から311小節目(プリマー残り5分の1あたり)にかけては13種類の記号がでてくる。タイや、スラー、フォルテ、ピアノ、そしてSlowlyのような速度に関する記号などである。その後約500小節(レベル1の最初)あたりでLazily(のろのろと)や、Sneakily(しのびあしで)のような速度に関する記号がでてくる。691小節目(レベル1の半分より前あたり)にアクセント、781小節目(レベル1の半分過ぎたあたり)にはクレッシェンドとデクレッシェンド、933小節目(レベル1の5分の4あたり)には1オクターブ上に上げて弾くオクターブ記号がでてくる。

バーナムには速度に関する記号が一切でてこない。しかし、この教則本はほかの教則本には見られない記号がいくつかでてくる。例えば、53小節目(導入書のグループ1の11番)にフェルマータ、683小節目(1巻のグループ5の10番)には親指のつめで鍵盤の上を高いほうから低い方にすべらせて演奏するグリッサンドの練習などである。

## ・1000小節まで終えたときの進度

それぞれの教則本が最初の1小節目から1000小節目まで弾いた際、どこまで進むことができるのか示す。

標準バイエルピアノ教則本は、全106曲中37番まで進む。この教則本の半分も進むことができないということである。ツェルニー100番練習曲は、全100曲中46番まで進む。よってこの教則本の約半分進むことになる。メトードローズピアノ教本は、全第6課中第3課の終わりまで進む。バスティンピアノベイシックスは、教則本2冊目がほぼ終了するくらい進む。バーナムピアノテクニクは、教則本3冊目が半分以上終わったところまで進む。

各教則本で進度がまちまちであるが、バスティンやバーナムは本を早く上げることができ、子どもにとっては新しい教則本を次から次へと渡されることでよりいっそう達成感が味わえるのではないかと思う。また、このことは時代の流れとも関連しているように思う。教則本の価格からみても、昔からあり、進度の遅いバイエルを1冊（約1000円）買うより、比較的最近の教則本で進度の速いバーナムを3冊（1冊が約800円、3冊だと約2400円）買う方が2倍以上は高い。このあたりに現代の不景気な時代の流れも汲み取ることができる。

#### ・その他の特徴

バイエルは片手の練習から入り、徐々に両手、先生と一緒に演奏する連弾が間に何度か組み込まれている。白黒の印刷で、イラストはない。初歩の楽典、楽譜の読み方、指の使い方などの記載はしてある。しかし、新しい記号がでてきたときに説明はない。

ツェルニーもバイエルと同様に白黒印刷で、記号の説明などはされていない。また、イラストもなく、1番から両手ではじまる。この教則本は名前のとおり、全部で100曲の練習曲から構成されている。各曲は短いがそれぞれに身につけさせたい形が組み込まれており、その練習曲が何を目指したものかが明確である。旋律も単純ではあるが美しいので練習は取り組みやすい。ツェルニーはバイエルピアノ教則本と同じようにさまざまな改訂版も数多く出版されている。

メトードローズは二色刷り。曲の題名の横に少しイラストがのせてある。最初は片手の練習から入り、両手の練習へとつなげられている。フランスの子どもが最初に歌い覚えていくような親しみやすい童謡を使い、自然に学習させていく教則本である。高音部のドから練習が始まるのが特徴で、また、この教則本では早いうちからへ音記号を導入している。エチュード的内容を右手練習、左手練習、そして両手練習といった風に順を追って練習させ、そのあとに表現の必要な小曲、という形式でそれらを交互においている。

バスティンは実際にいろいろな調の曲を徐々に弾いてみることによってすべての調を自然に覚えることができるような構成になっている。例えば新しい調が出てくるとその調子の説明があり、その調の曲をいくつか練習し、そのあとでまとめのワークのページがあり、教則本に自分で書き込んでいく、といった感じで新たな調がでてきたときは説明、実践、まとめの形がとられている。このピアノベイシックスは、単に演奏技術を身につけさせるためだけではなく、音楽のあらゆる分野を学習しながら幅広い音楽経験がなされるような構成となっている。教則本全体に、ピアノを弾くだけでなく、自分で書き込むワークの箇所もあり、理論や歌も盛り込まれている。多色刷りでイラストもたくさんのおいている。また、新しい記号が出てきた際にはそのつど説明がしてある。

バーナムは白黒印刷。全ての曲に題名と手書き風の人のようなイラストがつけられている。記号の説明があり、練習する際のポイントなども記されている。イラストも非常に単純で表情もほとんどの曲ではつけられていないため、子どもが自分自身で想像しながら弾けるのではないかと思う。

## \*まとめ

バイエル教則本は初歩の楽典、楽譜の読み方、指の使い方などを106曲の練習曲によって学んでいけるようにつくられている。調性や拍子、記号などすべてにおいて新しいものが出てくる量は一番少ない。多くのものをいっぺんにするというよりはひとつずつ、少しずつ前進していく感じである。

ツェルニーは、全部で100曲もの練習曲から構成されている。各曲の目的が明確で、かつ、取り組みやすいものであるとは言え、変化はあまりなく、100曲も練習曲があるためこの本を一冊上げるためには膨大な時間がかかるように思う。子どもは途中で飽きてしまうかもしれない。ツェルニーはバイエルピアノ教則本と同じようにさまざまな改訂版も数多く出版されているので、そういうものをうまく利用すれば、ツェルニーの短所である本全体が白黒であることや、変化のないことなどが補え、本来のツェルニーのよさも引き出せるかもしれない。

メトードローズは、片手ずつの練習、そのあとは曲、という形式が最後まで使われている。ワンパターンではあるが、片手の練習の次は両手で曲が弾けるので、そういった練習のあとの楽しみはあるように思う。

バスティンの最大の長所はカラーが豊富なことと、教則本全体に、ピアノを弾くことだけでなく楽典を学びながら、書きながら学ぶことのできるワークの箇所があることである。拍子や調性もそこまで多くもなく少なくもないので学びやすいかもしれない。

バーナムは、カラー刷りではないのだが、子どもの興味をそそるようなおもしろい題名と、表情を連想できそうなイラストに特徴がある。また、バーナムは次々に新しい内容がでてきて、常に新鮮な気持ちと次にどんな内容があるのかという興味や関心をそそるような教則本であると感じた。しかし、音価や記号が他の教則本と異なっているということは、裏を返せば内容が子どもにとって難しいと考えることもできる。

今回の研究は、ピアノ教育という観点からピアノ教則本について考えることが目的である。今回は教則本の種類を5種類に限定したが、今後の研究では比較対象を増やし、より包括的な研究にしていきたい。



表1 調性

小節数	(1) 標準 バイエルピアノ 教則本	(2) ツェルニー 百番練習曲	(3) "トドローズ" ピアノ教則本	(4) ヴスフィン ピアノバイエツクス	(5) ビーナム ピアノテクニック
1	C	C	C	C	C
100					
200					
269					C D E F
300					
400					
472		F			
500					
520		G			
600					
591				F	
645		B			
667				G	
681		D			
700					
800					
823					G
876			G		
866				C G F	
900					
986					D
1000					

表2 音価・リズム

小節数	(1) 標準 バイエルピアノ 歌則本	(2) ツェルニー 百番練習曲	(3) Xトドローズ セピア歌則本	(4) バスフィン ピアノバイヤクス	(5) バートン ピアノソナタ
1	13	33 49	0	9	9 17
100			123 139	69	84  裝飾音
200		179  符点 209			132  3連符 160  3連符
300		301  裝飾音 351  3連符		287	
400		456  ショロシヨ		399  スカート	374
500		508  コー			
600	599  スカート	633  符点			541
700		714  trmm フル			
800		786  6連符	809  符点		853  5連符
900		875  休符の入り符点		903  符点	913  trmm フル
1000		963  3連符			

表3 拍子

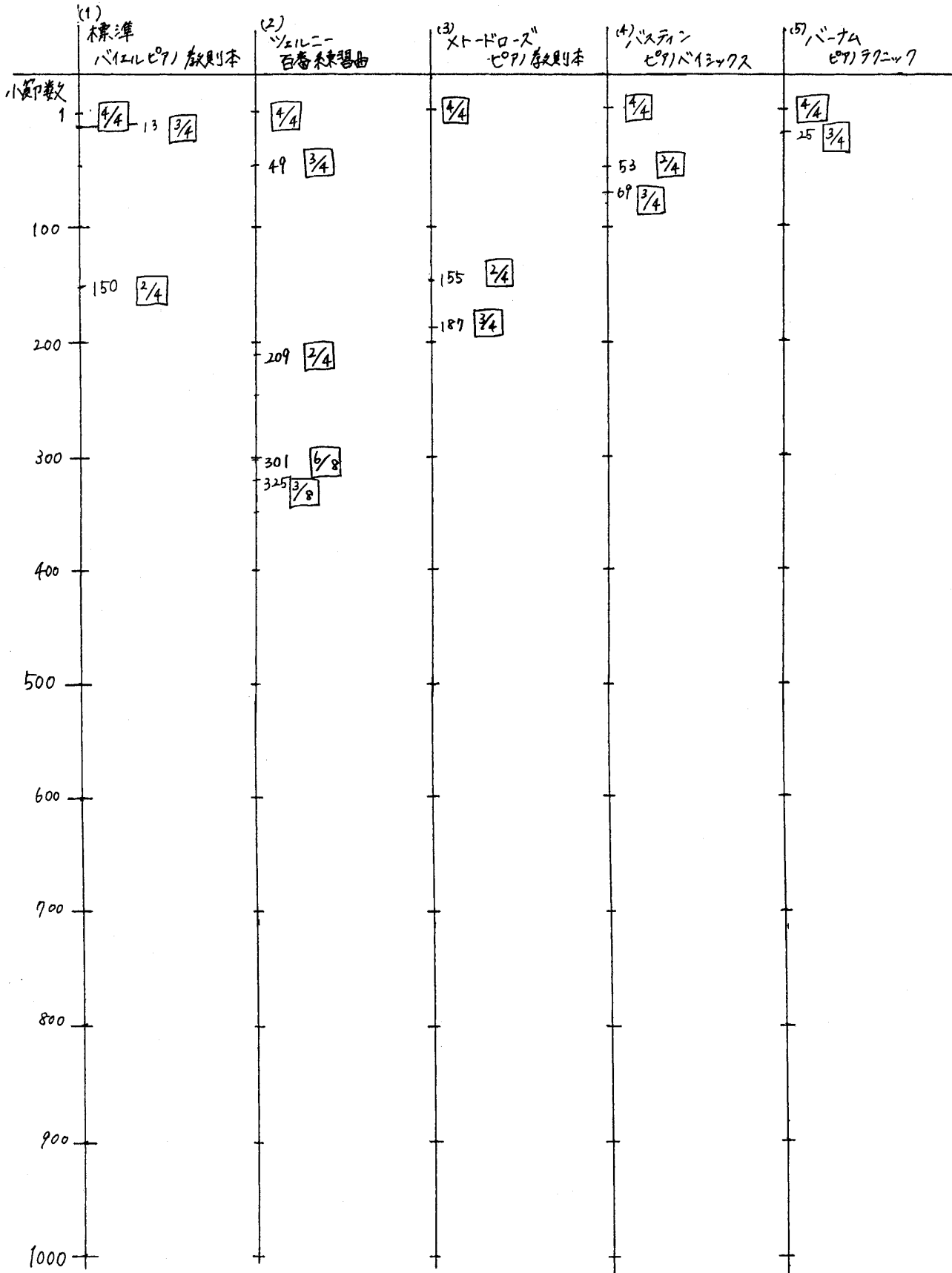


表4 表示記号

	(1) 標準 バイエルピアノ 各規則本	(2) ツェルニー 百番系楽習曲	(3) "ト・ド・ロス" ピアノ 各規則本	(4) "スフィン" ピアノバイエツワス	(5) "ビータ" ピアノツワニツワ
小指の長さ					
1		Moderato 17 Allegretto	♩ 2/2	17    ♩ 2/2	
		49 Andantino			53 ♪ フェルマータ
100		81 legato			84 1/2 アツセント
		113 Allegro vivace			
		177 Allegretto con moto		149 load (重), soft (軽) Moderately (中速)	136 スラー
200	189 Moderato (中速) 197 スラー	225 Allegro molto		157 f, p 181 f, p speditly (速) 187 → 91 205 → 91 221 Bright bigie tempo 229 Lively 7/8拍子 249 → Happily Moderately fast	
		273 Allegro moderato			
300		301 cresc, f, p 325 dim 351 mf		311 Slowly	
400	373    ♩ 2/2	440 Allegro	404 M.D. (右手) M.G. (左手)		374 legato staccato
500	503 Allegretto (中速) 535 Comodo (普通の速) 550	568 > アツセント	489 スラー 521 4/4拍子	483 Lazily 491 Sneakily	408 L.H. 414 L.H. R.H.
600	615 legato	584 8---- 600 1-1-2-1 617 > アツセント 633 Allegro maestoso 645 Sempre f → 1/2 アツセント pp, sf	599 Ne pas presser 622 sostenuto		541 > アツセント
700				681 アツセント	683 glissando グリュッサンド
800			745 D.C. 769 此の様に 793 此の様に	781 Crescendo diminuend	717 < グリュッサンド 736 8---- 759 - フォーテ > フォーティッシモ
900	831 91 879 Andante (中速) 945 sempre legato	931 fp 947 dolce e legato	950 此の様に 968 此の様に	933 8----	
1000					